

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	東北大学	整理番号	1802
プログラム名称	未来型医療創造卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中山 啓子

卓越大学院プログラム委員会における評価

<p>〔総括評価〕</p> <p>A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p>〔コメント〕</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、東北大学が取り組んでいる学際人材の育成に合致したプログラムであり、DTS（Data Science コース、Technology コース、Society コース）の学生がグループを組み、医療現場へ赴くバックキャスト研修やビルドアップ研修を組み込んだ文理融合カリキュラムが機能している。若手教員を中心にコーチング技能研修を受けたファシリテーター教員によるきめ細かい指導や企業の第一線で活躍する特任教授によるメンターの取組を通じ、「知のプロフェッショナル」たる学生の育成が実現できていることは評価できる。</p> <p>修了者の成長については、異なるコースの学生グループによる徹底的なブレインストーミングや各施設や企業でのインターンシップ等によって、学生自身が修了時に俯瞰力や独創力並びに高度な専門性に関して、様々な能力が向上したと実感している点は評価できる。国際学会への参加数や、論文発表数が目標を上回っており、学生アンケートによれば、専門分野の異なる学生同士、教員、企業関係者等との新たなネットワーク構築も順調に進んでいる。一方、コロナ禍の影響もあり、海外留学の実績が芳しくなかったことから、今後の国際的な経験や視野の獲得に向けた積極的な展開を期待したい。また、DTSの学生グループによる文理融合カリキュラムというプログラムの特性上、現在数の少ない情報系の学生の確保に向けた積極的な対応も期待したい。</p> <p>キャリアパスの構築については、医療系やアカデミアといった従来型のキャリアパスに加えて、文理融合型のカリキュラムが奏功し、医療系のプログラムとしては従来とは異なる民間企業への就職やコンサルティング系企業への就職等、新たなキャリアパスを構築できていることは評価できる。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、令和3年4月に「高等大学院機構」を設置し、学位プログラムの拡充に加えて、ディシプリン横断型学位プログラムの全学的マネジメントを構築している。これまでのさまざまな学位プログラムの管理・運営、博士課程学生への経済援助、大学院学生に対する共通教育、キャリア形成支援及び学修・研究専念環境整備などを行っており、本卓越大学院プログラムは「産学共創大学院プログラム部門」として補助期間終了後も自走できる体制が整っている。また、大学がハブとなって企業と企業の連携を強化し、ビジネスの社会実装を目指す共創体制 BUB（Business-University-Business）連携モデルを特徴とする Vision to Connect 拠点が始動していることは、今後の発展に向けて評価できる。</p>